

掛畑

カケハタアカガイの里 —掛畑—

県道198号線（桐谷下笹原線）を八尾市街地から久婦須ダム向けて進んでいくと、掛畑地区に出ます。掛畑地区の本法寺橋付近の久婦須川で初めて採集され、新種として論文に掲載された化石が5種類あります。このあたりの地層は、黒瀬谷層と呼ばれ、約1600万年ほど前に堆積したものと考えられています。この時代の八尾は熱帯～亜熱帯性のマングローブが繁茂する内湾性の湿地帯であったことが、オヒルギの花化石の研究によって明らかになりました。久婦須川へは、地区公民館付近の農道から降りることができます。河原の部分があまりないので、水量が少ない時期を選んで観察に出かけるとよいでしょう。



掛畑で初めて採取された化石

掛畑で初めて採取された化石には、次のようなものがあります。

- ・カケハタアカガイ
- ・ムカシセンニンガイ
- ・スタックヒルギシジミ
- ・ヤマネヒルギシジミ
- ・ヤツオタマキビ



カケハタアカガイ



スタックヒルギシジミ

特にヒルギシジミやセンニンガイの化石が産出したことから、このあたりは熱帯のマングローブ帯ではないかと考えられました。さらに、花粉化石の研究から、この考えが正しいことが証明されました。

ヒルギって何？

スタックヒルギシジミなど、名前についている「ヒルギ」は、植物に由来します。「ヒルギ」は種子が樹上で発芽する種を総称したもので、マングローブの仲間です。現在、国内では「オヒルギ」「メヒルギ」「オオバヒルギ（ヤエヤマヒルギ）」の3種類が見られます。このようなマングローブの生える低湿地に生息していたことから、貝の名前に植物名がつけました。

現在の日本でのマングローブの北限は鹿児島県鹿児島市（旧喜入町）で、主に沖縄地方に分布しています。掛畑のあたりは、昔は亜熱帯～熱帯の植物が生い茂る土地だったのです。



オヒルギ



メヒルギ



オオバヒルギ (ヤエヤマヒルギ)